

# 平成27年度冬作関係 除草剤・生育調節剤試験判定結果

(公財) 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成27年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成28年9月8日(木)に浅草ビューホテルにおいて開催された。  
この検討会には、試験場関係者34名、委託関係者29名

ほか、計79名の参集を得て、除草剤19薬剤(129点)について、試験成績の報告と検討が行われた。  
その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

## 平成27年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験判定

### A. 除草剤 (1) 小麦

薬剤名 有効成分 及び含有率(%)	判定	使用基準							継続の内容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意		
1.AH-01 液 グルホシネートPナトリウム塩:11.5%  [北興化学工業 *Meiji Seika ファルマ]	継								・効果、薬害の確認(耕起または播種前, 周縁部)	
2.BCH-109 細粒 ジフルフェニカン:0.2% フルフェナセット:0.6%  [バイエルクロップサイエンス]	実	一年生雑草	土壌	播種後～小麦2葉期, イネ科雑草1葉期まで	4kg～5kg	全土壌 (砂土を除く)	東北以南	・葉に白斑や黄化, 褐変を生じる場合がある。 *SU抵抗性, ジントロアニリン抵抗性, およびその複合抵抗性に有効		
		カズノコグサ								
		*抵抗性スズメノテッポウ								
		ネズミギ								播種後～小麦2葉期, ネズミギ発生始期まで
3.MBH-075 乳 プロスルホカルブ:46% リニュロン:11.5%  [丸和バイオケミカル]	実	一年生雑草	土壌	播種後出芽前, 雑草発生前	300～600mL 散布水量 25～100L	全土壌 (砂土を除く)	全域	・砂壌土では生育抑制を生じる場合がある。 ・少水量散布(25～50L/10a)の場合は専用ノズルを使用する。 *SU抵抗性, ジントロアニリン抵抗性, およびその複合抵抗性に有効		
		カズノコグサ			400～600mL 散布水量 25～100L					東北以南
		*抵抗性スズメノテッポウ			500～600mL 散布水量 25～100L					
4.NC-360 フロアブル キザロホップエチル:7%  [日産化学工業]	実・継	一年生イネ科雑草	茎葉	耕起10日前まで, 雑草生育期(草丈10cm以下)	100～150mL 散布水量 100L	全土壌	東北以南	・スズメノカタビラには効果劣る	・薬量75mL/10a処理での効果, 薬害の確認(耕起前) ・薬量500mL/10a処理での効果, 薬害の確認(周縁部) ・多年生イネ科雑草に対する除草効果の確認(周縁部)	
				小麦生育期 雑草生育期(草丈20cm以下) (圃場周縁)	750～1000mL 散布水量 100L					

薬剤名 有効成分 及び含有率(%)	判定	使用基準							継続の内容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意		
5.NC-622液 グリホサートカリウム塩: 48% [日産化学工業]	実・継 (従来 どお り)	一年生雑草	茎葉	耕起または播 種前 雑草生育期 (草丈30cm以 下)	200~500mL 散布水量 25~100L	全土壌	全域	・散布水量4~6L/ 10a, 25~50L/10a の場合は専用ノズ ルを使用する。 ・周辺作物に飛散し ないように注意す る。	・薬量500mL/10a, 散 布水量4~6L/10aでの 年次変動の確認(耕起 前, 北海道) ・薬量500mL/10a, 散 布水量5~6L/10aでの 年次変動の確認(周縁 部, 北海道)	
				播種後出芽前 雑草生育期 (草丈30cm以 下)	200~500mL 散布水量 25~100L					
				小麦生育期 雑草生育期 (草丈30cm以 下) (圃場周縁)	200~500mL 散布水量 25~100L  500mL 散布水量 5~6L					
		多年生イネ科雑 草(シバムギ, レッドトップ)	耕起前 雑草生育期 (草丈30cm以 下)	200~500mL 散布水量 25~100L	東北以南					
6.NH-009 液 グルホシネート:18.5% [日本農薬]	継								・効果, 薬害の確認	
7.SCC-010 液 グルホシネート:18.5% [日本アグロサービス]	継								・効果, 薬害の確認	
8.トリフルラリン 乳 トリフルラリン:44.5% [ダウ・ケミカル日本]	実・継 (従来 どお り)	一年生雑草(ツ ユクサ, カヤツリ グサ, キク, アブ ラナ科雑草を除 く)	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	200~300mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を 除く)	全域	・小麦生育期処理 は, 播種後の土壌 処理剤との体系で 使用する。	・カズノグサに対する 効果の変動要因の確認 ・小麦生育期における効 果, 薬害の確認(北海 道)	
		一年生イネ科雑 草		播種後~小麦 3葉期, イネ科 雑草1葉期まで						北海道
		一年生イネ科雑 草, カズノグサ		小麦生育期, 雑草発生前						東北以南

#### A. 除草剤 (2) 大麦

1.NC-360 フロアブル キザロホップエチル:7.0% [日産化学工業]	実・継	一年生イネ科雑 草	茎葉	耕起10日前ま で, 雑草生育 期(草丈10cm 以下)	100~150mL 散布水量 100L	全土壌	東北以南	・スズメノカタビラに は効果劣る	・薬量75mL/10a処理で の効果, 薬害の確認(耕 起前) ・多年生イネ科雑草に対 する除草効果の確認(周 縁部)
				大麦生育期 雑草生育期 (草丈20cm以 下) (圃場周縁)	500~ 1000mL 散布水量 100L				
2.NC-622 液 グリホサートカリウム塩: 48% [日産化学工業]	実	一年生雑草	茎葉	耕起または播 種前 雑草生育期 (草丈30cm以 下)	200~500mL 散布水量 25~100L	全土壌	全域	・散布水量4~6L/ 10a, 25~50L/10a の場合は専用ノズ ルを使用する。 ・周辺作物に飛散し ないように注意す る。	
				播種後出芽前 雑草生育期 (草丈30cm以 下)	200~500mL 散布水量 25~100L				
				大麦生育期 雑草生育期 (草丈30cm以 下) (圃場周縁)	200~500mL 散布水量 25~100L  500mL 散布水量 5~6L				

薬剤名 有効成分 及び含有率(%)	判定	使用基準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
3.NH-009 液 グルホシネート:18.5% [日本農薬]	継								・効果, 薬害の確認
4.SCC-010 液 グルホシネート:18.5% [日本アグロサービス]	継								・効果, 薬害の確認

#### A. 除草剤 (3) 水稲刈跡

1.DBN2.5 粒 DBN:2.5% [アグロカネショウ]	継								・効果, 薬害の確認
2.JC-401 粒 (旧NHS-50) 塩素酸ナトリウム:50% [日本カーリット]	実・継 (従来どおり)	一年生雑草, 多年生イネ科雑草, マンバイ	土壌	水稲刈取後雑草生育期	20~25kg	全土壌	東北以南		・多年生イネ科雑草に対する薬量と効果の確認 ・オモダカ, セリに対する当年の効果, および翌年の発生量低減効果の確認
3.NH-009 液 グルホシネート:18.5% [日本農薬]	継								・効果, 薬害の確認
4.SCC-010 液 グルホシネート:18.5% [日本アグロサービス]	継								・効果, 薬害の確認
4.YF-65L 液 ジクワット:7.0% パラコート:5.0% [シンジエンタジャパン]	継								・雑草イネに対する密度抑制効果の確認

#### A. 除草剤 (4) 水田畦畔

1.DBN4.5 粒 DBN:4.5% [アグロカネショウ]	実・継 (従来どおり)	一年生雑草, 多年生広葉雑草 (マメ科雑草を除く), スギナ	土壌	秋冬期~春期 (雑草発生前~始期) (水田畦畔)	6~8kg	全土壌			・12kg/10a処理での効果, 薬害の確認
2.SBH-207 粒 塩素酸ナトリウム塩:50% [エス・ディー・エス バイオテック]	実・継	一年生雑草, 多年生広葉雑草	土壌	水稲刈取後, 雑草生育期 (草丈30cm以下) (水田畦畔)	20kg	全土壌	東北以南		・薬量30~40kg/10a処理での効果, 薬害の確認 ・多年生イネ科に対する除草効果の確認